

あけぼのあゆみホーム

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年4月23日

【評価実施概要】

事業所番号	3471502447		
法人名	佐々木産業有限会社		
事業所名	グループホーム あけぼのあゆみホーム		
所在地 (電話番号)	広島県福山市曙町5丁目5番25号 (電話)084-954-5704		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1丁目6番29号		
訪問調査日	平成19年4月13日	評価確定日	4月13日

【情報提供票より】(平成19年3月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年12月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤	12人, 非常勤 6人, 常勤換算 18人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	1階建て	1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	25,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,160円			

(4)利用者の概要(3月25日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	6名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	73歳	最高	98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	クリニック和田、楠本病院、橋高歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは閑静な住宅街に立地しており、コンビニエンスストア・病院などが近隣にある。ホームの特徴としては、建物は平屋造りで安全の中で生活して頂くための環境が提供されている。また、ウッドデッキもあり、開放的な空間づくりとなっている。庭には、花やイチゴ、野菜など家庭菜園が出来るようになっている。建物の屋根や駐車場には、ソーラーシステムを採用され環境にも配慮されている。職員も利用者の個々のペースを尊重しながらその関わりも自然であり、家庭的な雰囲気づくりがされていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回での外部評価をもとに改める改善項目については、既に解消されているのが伺えた。現状の維持とさらなる向上を期待する。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員がホームを良くしようという意欲と姿勢が伺えた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 現状維持に努め、今後も事業所の活動内容をもっと明示し、そして助言なども明示しながらサービスの確保を図るという目的がある。これらを、運営推進会議に取り入れ意義あるものにし、会議の目的を明確にし、より良い会議となるよう期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ホームと家族は近密であり、信頼関係も構築されているのが伺えた。今後も家族などの意見を十分取り入れながら、より良いホームづくりに努めることを希望する。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは地域に開かれた運営という目的を大前提としているので、今後も地域との関係は大切にし、積極的な連携を図ることにより、利用者の生活の幅が更に広がることを望みます。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ケアの視点に立ちながら、入居者が日々の生活に満足していただくための基本理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に職員は理念の意識付けをするために、毎日の朝礼時には理念の唱和をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会の参加や清掃活動などをされている。近隣の小学生が遊びに来たりしている。		今後も地域の一員として、積極的に地域活動に参加し、近隣との付き合いを深め、地域密着型としての機能を果たすことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期的な評価に基づいて、自己点検を行いながらサービス改善に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議の内容については、家族へ「ホーム便り」を初めとして絶えず家族へは報告している。		この後も事業所の活動内容などをもっと随所で明示し、関係者の助言などを活かしながらサービスの確保を図るという目的があるので、運営推進会議の在り方や意義、会議の目的を明確にすることにより、今以上に良い会議となるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの情報提供には、極力実施できている。		市(支援機関)との調整・連携・協議は必要不可欠なので、一段の努力を期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホーム便りや電話などで常に報告をし、金銭については、基本的にホームが立て替えを行い、出納を明らかにし毎月知らせている。個々の能力によっては少額程度は、個人で管理している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会長・社長などの管理職は、共に職員の意見や要望を聞き出すように日頃から話し合いの場を設けている。会議によっては、場を和ますために食事会を兼ねて話し合いを行うこともある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとっては、環境設定がとても大切なことを職員が理解しており、職員の異動は出来るだけ最小限に抑えるように努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修など参加した場合、研修内容を報告する機会を設けている。また、出来るだけ専門職として介護福祉士などの資格取得の向上を目指している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修会などには、ホーム長、ケアマネージャーなどが出席して、実技講義の両面で研鑽に努めている。		もっと他の事業所との交流を図り、サービス向上を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>安心してサービスの利用ができるように入居前には、必ずホーム内を見学して頂き、本人あるいは家族などの意志が反映出来るよう確認し入居されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>介護の基本である、利用者本位に寄り添って生活を一緒に育むという意識のもとで支援されているのが伺えた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活歴(生育歴)を確認し、本人にとって今後の生活をどう過ごすかを考えながら支援されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族などの意見が十分反映された、介護計画を策定されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回は介護計画の見直しを行い、この間状況が変化すれば随時見直しがされている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	検討中である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況に応じて主治医と、相談・指導を受けな がら支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	本人や家族の意向を踏まえながら、主治医の指示に従 い支援されているのが伺えた。		ホームとして、ターミナルケアは必要不可欠の問題である ので、「本人の気持ち・今後希望する暮らしなど」家族など と話し合いの場を設けてホームとして、出来ること・出来な いことをきっちり話し対応していくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	毎日、行っている基本理念の唱和により、自己点検を 行い利用者の人権・権利について意識づけを行い、利 用者個々の状況に合った気配り、声配りと支援されて いる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで生活して頂き、本人の希望に添った支 援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の個々の身体状況と希望により、準備や片付けなどを職員と一緒にしているが、介助する方が多く利用者・職員と一緒に食事が出来ない状況であった。		今後は、可能などころでコミュニケーションを図るという目的で、利用者と職員と一緒に食事を食べられることが出来るように雰囲気づくりに努めることを期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を試みて本人の意志で決定し、入浴支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ケアの原点でもある「本人の可能性を奪わない」という視点のもとで、職員が支援されているのが伺えた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が外出をしたいという意欲がある限りは、意欲を損なわないように一緒に職員が同行して希望の場所に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはドアチャイムを設置し、確認出来るように安全面に配慮されている。外出しそうな方がいれば、さりげなく声掛けなどを行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を定め、消防署の協力を得ながら防災訓練を年数回実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を考えている。毎月の体重測定や水分摂取量を目安に、個々利用者の栄養摂取量に見合った食事の提供をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた楽しい生活空間作りに努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅でこれまで使っていたベッド・椅子・仏壇など、また新規入居時には不応を起ささないよう細心の配慮されている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 あけぼのあゆみホーム

所在地 福山市曙町五丁目5番25号

記入年月日 平成19年3月23日

記入者 職 ホーム長 氏名 吉仲 禎恵

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	入居者が日々の生活に満足していただくための運営基本理念を定めている。		今後も続けていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営方針や目標等を職員に浸透させる取り組みとして、会議の場で日常的に話している。又、基本理念については毎日朝礼で唱えている。		今後も続けていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域包括支援センター及び町内会長・民生委員等と会議を開催し検討を重ねている。		今後も取り組んでいく。

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域の清掃活動などに参加し顔見知りになるため、参加する様取り組んでいる。		今後も取り組んでいきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行動や老人会には参加させてもらっていますが、関係を深める働きかけは出来ていない。		高齢のため少々難しい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。			地域の高齢者の暮らし等を把握し取り組んでいきたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ケアサービスの質の評価について、取員に周知し、評価結果をサービス改善に活かしている。		金銭面の理解については、出来る人とは買い物に同行し、金銭感覚の維持に取り組んでいる。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議終了後は利用者家族へ「ホーム便り」として2ヶ月に一度報告している。資料も全員に配布し、ご意見を伺っている。		各方面の方々に参加していただいて今後も続けていく。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市からの情報提供は実施できている。		充分ではないがこれからも続けていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	運営者、管理者、職員が共に勉強会を持って学んでいる。(資料をもとに)		これからも適切に活用できるよう学んでいきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	運営者、管理者、職員が共に勉強会を持って学んでいる。(資料をもとに) 入居者同士についても注意を払って防止に努めている。		日常生活の中で特に入居者同士の行動に注意したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約・解約に際しては十分な説明を行い、理解・納得を図っている。</p>		<p>これからも続けていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>			<p>検討していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>利用者の暮らしぶり、健康状態、金銭管理については面会時や電話で報告している。 職員の移動については、面会時やホーム便りで報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>地域運営委員会が2ヶ月に1回ありますが、それに家族の出席をえて、率直な意見、要望、疑問を述べてもらっている。</p>		<p>家族会を設けるか検討する。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>採用については経営者以外に取員も参加している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>必要に応じて勤務調整を行っている。</p>		<p>これからも続けていき、要望に柔軟に対応したい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニットごと取員の異動を出来るだけ最小限に抑えるよう努力し、異動する時は動揺がない様、配慮するように努めている。		ユニットの取員の異動について、利用者の動揺のないよう考えていきたい。
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士の資格取得対策（3割程度） ・ケアマネジャーの計画的研修体制 ・実務研修の全員受講 ・事業者研修 		<ul style="list-style-type: none"> ・全員受講計画策定 ・受講者の終了後職場定着対策
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム協会の研修会でホーム長、ケアマネなど出席して実技講議の両面で研鑽に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループホームとの職員相互研修 ・同業者と協議会を設け、課題研究、研修会議の開催。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は月1回職員会議で、悩みを聞くが不十分である。 ・ヒヤリハットを申し出てもらい教材化する。不十分。 		<ul style="list-style-type: none"> ・横の関係を重視する為、何回かに分けて懇親会を設けたい。（仕事は関係のない話がよい）
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得を給与に反映する体制をとっている。 ・小額であるが、定期昇給を実施 ・研修、受験時の勤務計画に配慮。 ・期末勤勉手当の実施（年3ヶ月） 		<ul style="list-style-type: none"> ・研修出席者による職場研修の充実 ・期末勤勉手当の充実
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 </div>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	本人をふまえて家族の方と十分に話し合う機会を設定している。家族の方が来所された時も同様です。		本人が心地良く過ごせる様、困り事、不安な事、求めている事など確認していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談、利用に至り、一番求められている事など利用者に安心出来る説明ができる様、努力していきたい。		これからも努力していきたいと思っている。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まず良く話し合い、ニーズを捜し当面必要と感じる事から始める。その後は、他サービスも含めて考える。		「その時」が一つではないのでいろいろな場面を想定し支援する。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	当面は本人の思うまま動いていただいて、それに職員がフォローし、早く馴染んでいただく様に支援する。		職員は常に気配りをしている。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同生活の中で、喜怒哀楽を共に本人から学んだり、助けていただく場面もある。		毎日努力してはいる。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人を支える家族との関係が共有できるような連絡を取りながら支えていく関係を日々築いている。		日々努力して、一緒に本人を支えている。
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご家族を面会時に本人と家族がよい関係が保てるように助言している。		毎回家族の方が来所された時は、居室での談話を行っている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	中々馴染みの人や場との関係継続は難しい。来所されると交流の支援には努めている。		来所された方々については支援に努め関係継続を支援している。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一人孤立しないよう、気配り、目配りで利用者同士の関係を支える様に努めている		目配り、気配り、思いやりを続け利用者を支えたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用後の関係作りは充分でない。		これから断ち切らぬよう、改善していきたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとり思いや暮らし方が違うため大変であるが、いい関係を作り把握するよう努力しているが充分でない。		これからもっと努力して行きたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活暦等は介護に生かし、入居時の経歴で不十分な所は家族等から話を聞き、参考にしている。		話されている内容から、くみ取って把握していく。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとり、その方に応じた一日を過ごしていただくよう日々努めている。		今後共続けていく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	個人ファイルに介護計画をファイルしていつでも目を通す事が出来る。又介護計画に当たっては現場の取員、家族の意見も反映させる様に取り組んでいる。		今後も続けていく。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	何ら状態の変化がなくても最低3ヶ月に1回介護計画の見直しをし、急な変化のある時は、その都度改める。		今後も続けていく。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日勤帯、夜勤帯に分け毎日記録をしているが十分な内容とは言えない。指導しながら生かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	検討中である。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。			消防・警察への働きかけ又ボランティアの活動についてもお願いしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他の事業者との話し合いは行っているが、他サービスを利用するまでは行っていない。認知症のためなので合致しない。		必要性に応じて他サービスも利用していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括センターと協働している。		必要性に応じて受け入れていただく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者の状況に応じて相談・指導を受けながら支援している。		今まで通り連携していく。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医との連携は出来ているので相談しながら支援している。		今後も受診していく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	考えているがまだ出来ていない。		専門職として常にしてもらいたいと思っている。
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合、随時連絡をとり状態を把握し、よりよい医療が受けられるよう支援している。		これからも努めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	今検討中である。		まだ充分でないので、これから取り組みたい。
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医師と相談しながら今後の変化に備え、検討している。		医師と相談しながら今後、変化に備え検討していく。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	入居前には必ず本人に関わる保健、医療、福祉関係者を訪問したり、情報提供を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	入居者一人ひとりの状態に合わせプライバシーに配慮した声かけ介助を心がけている。		今後も注意していきたい。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	一人ひとりの思いに共感出来る様に努めている。		自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援していく。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の思いを優先していただき、趣味などを生かして菜園、料理作りなど手伝っていただいている。		今後も希望にそって支援していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月1回ホームにて希望者には散髪をしていただいている。		今後も努めていく。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者で手伝いたい人には準備や片付けを手伝っていただいている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者の好みをさがし出来るだけ皆に合うよう心がけている。		充分でないので、取り組んでいきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	おむつの利用を減らし、定期的に誘導し、習慣付けを支援し取り組んでいる。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴を試みて自分の意思で決定し入浴支援をしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの習慣や状況に応じて声かけ、誘導し、休息していただく様に気をつけて支援する。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	入居者が出来ることは共に協力し合い、その人の役割を支援できている。		これからも色々と考え支援したい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理の出来ている人は出来ている(一部の人に限り)		基本的に金銭の自己管理が出来る方が少ない。理解されない方もおられる。今後の課題である。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者が外出したい時は、職員が同行して希望の場所にお連れしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	墓参りは出来るだけ家族との外出時など支援している。		現実、通信の要求が出来る人が少ない。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自己決定がある人は、プライバシーに配慮し支援できている。要求時には対応できている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	笑顔でお迎えしています。自然にユニットに親しんでいただける様、心がけています。必ず湯茶、コーヒー等を出す様にしています。		これからも続けたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会議等で研修をしながら随時勉強をするように努めている。		これからも研修等に参加し正しい勉強をしていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関・居室も利用者の意思に任せている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	各ユニットにおいてプライバシーを大切にし、目配りの配慮を行っている。夜間の巡回し、配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の目の届かない場所に保管し、利用後も早急に片付けるようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	会議等で勉強しているが充分でない。		充分でないので取り組んでいきたい。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	緊急時マニュアルはある。時々会議等で勉強し確実にしていきたい。		定期的に勉強し確実にしていくよう続けたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	取員は災害の訓練当を消防署より指導を受けたりして研修している。		地域からの協力が得られる所まで出来ていない。両方共まだ働きかけをしていくように努める。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	毎日の来所時に家族と話し合い対策はしている。		これからも続けていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々検温、脈拍、血圧等チェックして異変の発見に努め共有し、関係医師の指示を得て対応している。		一人一人の変化に早く気付くよう、目配り、気配りを大切に努めるよう指導している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の間違いのないように確認に努めるようユニット会議にて話し合いを持っている。		これからも勉強し、よりよい対応ができる様に取り組んでいきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便チェック表に個人の便間隔をチェックしている。水分量や食事などに気をつけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一日一回は口腔ケアを行っている。又入れ歯の確認・洗浄に取り組んでいます。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	メニューは栄養士が考え、栄養バランスは取れている。水分摂取量は入居者のチェックをし、1日分摂取量を把握している。		なかなか入居者と料理を作る時間がもてない。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	消毒、手指、ドアノブ、手すり等の消毒を実施しています。		インフルエンザ予防接種は行っている。感染予防に向けてマニュアルを決め対策している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後は食器の殺菌消毒を毎回行い、食材は毎日仕入れている。		これからも注意し安全管理に努める様、支援したい。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関・建物周辺は出入りがたやすく安心である。庭に木や花で家庭的雰囲気作りを心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	派手すぎず、飾りすぎず、過程的な雰囲気を目指している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳コーナー、ソファ、ウッドデッキ等、自由に利用できる。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭で使っていたベッド、椅子、仏壇等、持参して頂き安心して頂けるよう配慮しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	掃除の時には窓を開けて空気を入れ替えをし、その日の気温により快適な湿度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	滑り止めの床、手すりの設置、浴槽内の滑り止めマット等、安全に生活できる様に配慮しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	洗濯物の整理、居室の掃除等できるだけ一緒にし、自立ができる様支援している。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	リビングより、庭や外に行くことができ、草取り、花、野菜の手入れができる。		花作り等は続けたい。